



平成14年  
8月15日号

No.1102

●毎月5・15・25日発行

# 広報 かもがわ

●編集発行・鴨川市役所秘書課  
広報広聴係  
●電話・0470(93)7827  
●FAX・0470(93)7850  
●鴨川市横渚1450  
●郵便番号・296-8601

## 棚田について考えてみよう 「第8回全国棚田サミット」が開催 8月30日(金)～9月1日(日)

棚田の保全に取り組んでいる全国の市町村や民間団体の関係者が集まり、その知恵を出し合う「第8回全国棚田サミット」が8月30日(金)から9月1日(日)までの間、行われます。講演会や映画の上映会、大山千枚田での「棚田フェスタ2002」へ、どうぞ、お出かけください。

- 8月30日(金) PM1:00～ 市民会館  
▷特別記念講演《県知事 堂本暁子氏》  
▷事例発表 ①「大山千枚田の保全」  
②「徳島県上勝町のほ場整備」  
③「福岡県浮羽町の棚田米販売」
  - 8月31日(土) PM6:30～ 市民会館  
▷映画の上映会 「走れ!ケッタマシン」  
(入場料は無料)
  - 9月1日(日) AM10:00～PM3:45 大山千枚田  
▷「棚田フェスタ2002」 バンド演奏やハワイアン・フラなどのステージイベントのほか、郷土料理教室、千枚田写真コンテストとスタンブラーの表彰式、各種出店など  
(送迎バスがあります。運行表は次号で)
- ※問い合わせは市農林水産課(☎7834)へ

# 行財政基盤の強化と効率化をめざし

## 平成13年度までに 行政改革を56%推進 実施期間は平成13～15年度

行政改革への取り組みが強く求められています。市では、平成十三年度から十五年度までを実施期間とする「第三次行政改革」に取り組んでいます。このほどまとまった平成十三年度の推進状況は、五六%となりました。市では行財政基盤の強化と効率化をめざし、今後も引き続き、行政改革を推進していきます。



一層スリムな行政に

### 総合窓口設置や財政健全化への取り組みなど

平成十五年度を目標年度とする第二次行政改革では「市財政の健全性の回復」「事務管理の効率化・適正化」「行政組織の統廃合」「職員資質の向上」の四分野を柱とする二十九件の改革項目について、各担当課でそれぞれ実施に努めるとともに、十分な調査・検討が必要な項目については、改革の方向性や結論を導き出していきます。

初年度となった平成十三年度は、経費の節減や行政組織の見直し、職員の研修派遣などを積極的に進め、全体の推進状況は五六%でした。改革の主な内容は次のとおりです。

■市財政の健全性の回復  
職員数の削減では、十五年度までに二十人の削減を目標とする「定員適正化計画」を前倒しで達成するとともに、さらに、適正な行政規模をめざした調査や研究を進めました。財政構造の改善では「公債費負担適正化計画」に基

振興策について協議を進めるとともに、国保病院では、給食の外部委託や療養病床の設置を行い経営の改善に努めました。

■事務管理の効率化・適正化  
地域イントラネット基盤整備事業を活用して公民館などに市民利用端末を設置。インターネットを使った市政情報の提供や市長へのメール受付を始めました。

行政改革の推進状況

項目	推進割合
市財政の健全性の回復	57%
事務管理の効率化・適正化	40%
行政組織の統廃合	41%
職員資質の向上	79%

今日、8月15日は「終戦記念日」です。戦争を体験していない世代が大半を占め、戦争の記憶も少しずつ薄れています。

鴨川市は、平成7年8月15日、「平和都市宣言」をしています。どうぞ、命の尊さや平和の大切さを自覚し、平和な世界をつかっていきましょう。

## 「平和都市宣言」

世界の恒久平和は、人類共通の願いであります。この願いを実現するためには、国際理解を深め、生命の尊厳を認識し、戦争のない平和な社会を迫及していかなければなりません。

私たち鴨川市民は、日本国憲法の掲げる崇高な理想を深く自覚し、武力による紛争を無くすと共に、核兵器の廃絶を訴え、世界の人々と共に手を携えて、かけがえのない地球の恒久平和実現のため、ここに鴨川市を「平和都市」とすることを宣言します。

### 行政評価システム研究や各種補助金の見直しなども

■職員資質の向上  
市役所での届出や手続きなどのワンストップサービスをめざし、市役所一階に「総合窓口」を開設しました。また、組織や事務の現状を検証し、問題点の把握に努めました。

■行政評価システムの構築をめざし、庁内研究

安房地域市町村間の職員人事交流、県への研修派遣を継続して行ったほか、民間サービス業への研修派遣について、受入企業の選定を行いました。専門職についても、医療・福祉職員間の人事交流を行いました。

会を発定させます。また、市が各種団体などに交付している補助金の見直しについては、多様化した行政需要への確に対応し限られた財源を有効に活用していくために第三者機関を設置し、効果や必要性を再検討するとともに交付のガイドラインを策定します。さらに、市の財政状況の公表では、これまで蓄積してきた資産や現金、負債の構成を表す「バランスシート」を導入していきます。このほか、業務委託のガイドラインの策定や組織の見直し、審議会・委員会など附属機関の整理、合理化に対しても、さまざまな角度から調査・研究を重ね、行政改革への方向付けや結論を導き出していきます。



※ご意見は市企画振興課(☎78288)へ

南房総は何となく、鴨川に行くとなると花がなくなると急にかげがなくなる。何処かに広い花畑があつてゆつくりするところがあるはずだと思ふのだが見当たらないのである。▼人は期待が大きければ大きいほど落胆は大きく反動も強い。地元の人達は「千倉や和田と違う」「季節外に花はない」と不思議に思わないが「落胆」の反動が怖い。▼今日の地域創りは従来、当然と思われてきた事を見直すことからスタートする。「こんな山奥に観光客が来るはずがない」と言っていた地域が「こんな山奥だからこそ都会にはない大自然がある」と発想の転換をして成功した例は少なくない。▼花も同じだ。一部に県が補助金を出したとはいえ、広域農道に花を植えたり、休閑地をチューリップ畑にしたりして活性化を図っている地域がある。南房総を代表する鴨川にとって、花は補助金の有無に拘わらず基本的な「地域インフラ(基本施設)」だ。▼広大な自然、広がる花畑、泊まりがけで花摘みやスケッチやカメラが通年楽しめる、それも素晴らしいリゾートライフだ。

とじて保存しましょう